

議会閉会中の委員会活動

福祉文教委員会

協議事項 ● 高山市子どもにやさしいまちづくり計画について

令和2年 2月18日

本市における子ども・子育て支援に関する施策等を総合的に推進するための計画で、市教育大綱の基本方針、市地域福祉計画の基本理念を踏まえ、今回、子どもの貧困対策の推進に関する法律の制定を受け、同法に基づく計画としても位置づけ、計画期間終了により新たな計画を策定するもの。

●基本理念 「子どもがやさしさにつつまれ、健やかに育つまち」

長岡市行政視察 子育ての駅千秋「てくてく」
保育士も常駐する子育て&交流施設

●基本目標

①安心して子どもを生み、育てることができるまちづくり

- ・安心して出産ができる環境の充実
- ・専門的な相談支援・体制の構築
- ・子育ての孤立化を解消 など

②子どもが豊かに学び、健やかに育つまちづくり

- ・成長段階に応じた遊び場、居場所の充実
- ・学校、家庭、地域が協働して、子どもの豊かな成長を支えていく仕組みの構築 など

③みんなで子育て世代を支え合う、愛情につつまれたまちづくり

- ・子どもの貧困問題など経済的・精神的負担の軽減
- ・障がいのある子どもなどが、生まれ育った地域で教育が受けられる教育ニーズに応じた指導や支援ができる教育環境の整備 など

●委員会の質疑から

- ・身近な子育て世代の遊び場が不足している。子育て支援、少子化対策に力を入れること。
- ・様々な課の連携が必要である。各課が子どもにやさしいまちづくりをしていくという共通の意識を持ち、進めること。
- ・子育ての大きな責任をもつのは保護者であることへの意識がうすれないように発信しながら施策を推進すること。



産業建設委員会

政策課題 ● 温泉を活かした観光まちづくり

行政視察 ● 三重県鳥羽市

令和2年 2月7日

入湯税収入の使途「鳥羽モデル」

目的税である入湯税の使途や活用のあり方について調査を進める中で、「鳥羽モデル」と呼ばれる三重県鳥羽市の取り組みを視察しました。

鳥羽市は、入湯税収(年間約1.6億円)の配分において、収入額の70%を観光振興基金として積み立て、残りの30%を源泉管理などの補助金として温泉振興会に支出する独自の方式を取っています。

鳥羽モデルは、関係団体との十分な意見調整を踏まえ導入されており、基金によって使途を明確に管理できるといったメリットはありますが、資金が内部留保されていることや補助金による事業と市の事業の重複といった課題もあり、その整理・精査は求められるところです。

本市における入湯税収(年間約2.4億円)は、海外戦略を含む観光振興・観光施設に全額充当されていますが、温泉関係団体より鉱泉源の保護への充当も求められています。

当委員会では、入湯税の活用のあり方や目的税などの財源を活用した持続可能な観光まちづくりについて政策提言できないか、さらに調査研究を深めたいと考えています。

